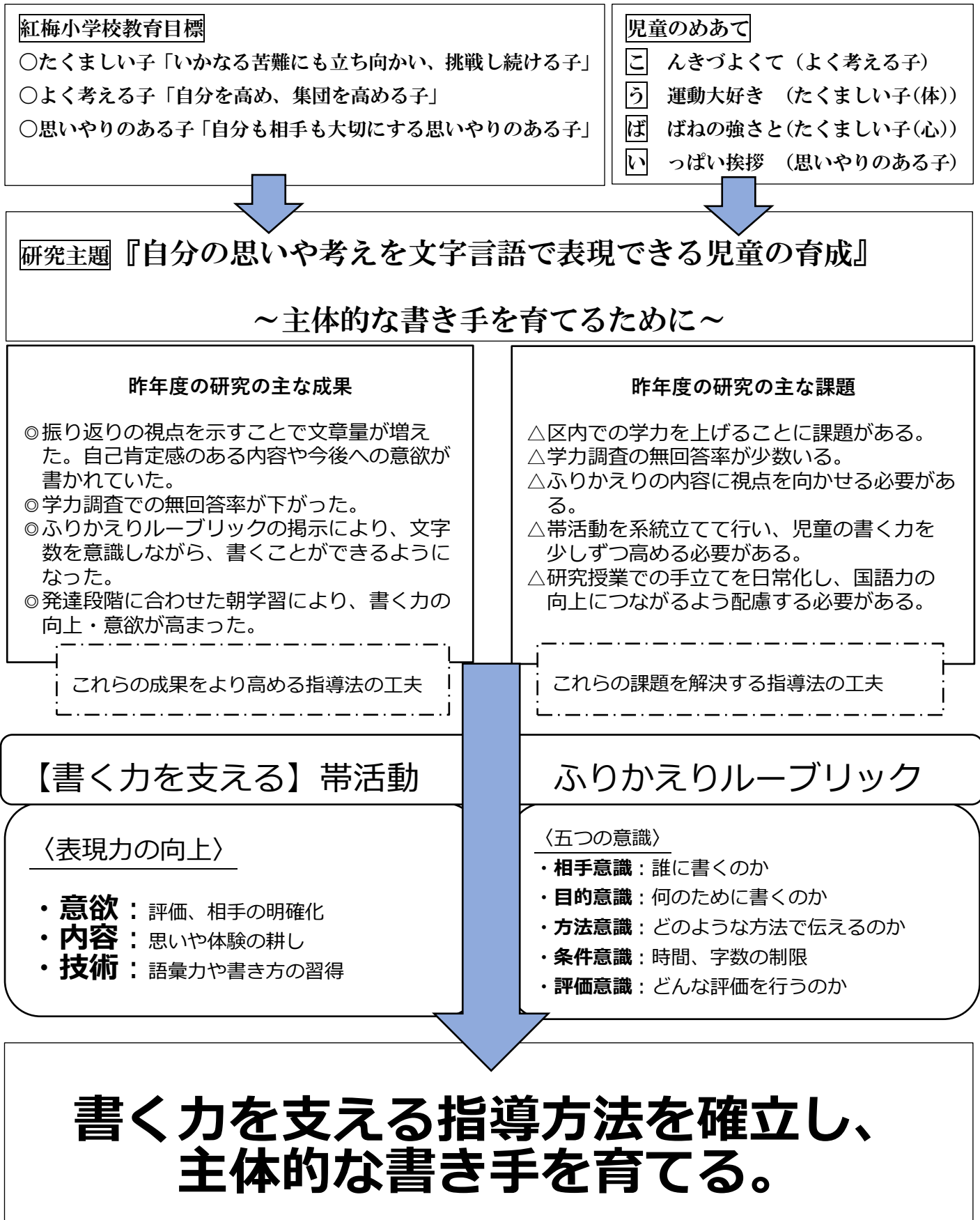


令和6年度 校内研究計画書

板橋区立紅梅小学校
研究推進委員会

1 研究構想図



昨年度の研究における主な成果と課題は、以上の通りである。
これらの成果をより高め、課題を解決するための指導法を工夫し、「書く力」を高めていきたいと考えた。
また、帯活動による日常的な取り組みにより書く力を支える活動を行うことで、児童に身に付けさせたい力をより一層明確にし、児童の書く意欲へつなげていくようにした。

2 主題設定理由

(1)時代や社会要請から

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編「改訂の経緯及び基本方針」に、子供たちが、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、優れた教育実践に見られる普遍的な視点である『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を推進することが求められる」と示されている。

また、OECDが行っている全国学力・学習状況調査の結果からも分かるように、児童の書く力の低下が浮き彫りになっている。

これにより今年度も研究主題を「自分の思いや考えを文字言語で表現できる児童の育成」をの継続を行い、児童の学力の向上・教師の授業改善ということで研究を進めていく。

(2)学力調査、児童のアンケートから

（省略）

(3)児童の実態から

（省略）

3 研究内容

次の方法によって書く力、主体的な書き手の育成を図る。

(1) 自分の思いや考えを文字言語で表現できる児童を育成するための工夫（構想図）

(省略)

【児童の実態の把握】

(省略)

【身に付けたい資質・能力の明確化】

そこで児童に書く楽しさを味わわせたい。児童の書く力を高めたい。

【単元化】

児童の実態に合わせて、目指すゴールを作成。

それに到達できるよう、表現力の向上、五つの意識を児童の実態に応じて取り入れた授業での指導工夫、帯活動・ふりかえりルーブリックの充実。

【事前授業→授業実践→事後授業】

指導案検討後、事前授業。学年での修正。

研究授業実践後、研究全体会による改善。(講師の先生からの指導講評)

事後授業の実施。

【指導の振り返り、成果と課題の把握】

研究全体会を通してのふりかえり、成果をまとめる。(研推だより発行)

日常的な取り組み(帯活動、ふりかえり)、授業での指導工夫改善。

【OJT 研修】 校内研究を行うにあたり、主任教諭の先生方から授業の基礎を学ぶ。

日程	内容	講師
4月	黄金の3日間、学級開き	
4月	授業の基本、教師の教態	
5月	授業スタンダード、読み解く力	

【若手研修】授業づくりを行い、互いに授業力向上を行う。

日程	内容	担当
5月	体育	
8月	国語	
9月	算数	
10月	道徳	
2月	情報	

(2)自分の思いや考えを文字言語で表現できる児童を育成するための具体的な取り組み

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
目指すゴール	書くことが「 <u>楽しい</u> 」と思える。					
	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語を意識して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成をもとに文のまとまりを意識して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由を踏まえて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例を入れながら書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と考えを区別しながら書く。 引用、図表やグラフを用いながら書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的、意図に応じた引用をする。 図表、グラフを活用して自分の思いを書く。
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 五十音表を声に出して写す。 先生、あのね 	<ul style="list-style-type: none"> 1分視写 	<ul style="list-style-type: none"> 日記 	<ul style="list-style-type: none"> 日記 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文 ミニ作文 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文 ミニ作文
検証	<ul style="list-style-type: none"> 主述の整合性 接続後の活用 まとまりで書けているか 文章量の変化 		<ul style="list-style-type: none"> 理由が書けているか 1文の長さが適切であるか 表現の仕方を工夫しているか(段階的な指導を行う) 文章量の変化 		<ul style="list-style-type: none"> 事実と感想の区別ができるか 内容+構成 根拠づけるために図表、グラフが活用できているか。 文章量の変化 	

※今後、これをもとに日常的な活動を、より具体的に考えて検証していきます。

3 研究の仮説

書き手の主体性を育てることができれば、書くことの内容が充実し、自分の思いや考えを文字言語で表現できる児童が増えるであろう。

振り返りループリックとは、学年の発達段階に応じたふりかえりの視点のこと。レベル別に示すことによって、児童の書く意欲を高める事を目標とする。

主体的な書き手とは、自らの意思で書くこと。相手に伝えたいことを自己判断し、適切な言葉で書き表すことができる児童の姿を目標とする。

4 研究方法

○研究授業（R6 6回）

○学年での指導案作成

○事前授業の実施（研究授業2週間前に指導案検討、10日前に事前授業予定、1週間前に指導案送付）
（※事前・事後授業者に関しては学年にお任せ）

○事後授業の実施（研究授業後1週間以内）

⇒事後授業実施日 放課後15分程度検討。（授業者、学年主任、研究推進委員会）

○研推だよりでの報告（事後授業を含めての成果）

○研究集録、リーフレットの作成、

○帯活動ワークシート集、ふりかえりループリック

○検証、校内研究のまとめ報告会（2月）⇒全体会での共有